

◆日本初開催！「デフリンピック」を楽しもう 人権コラム 心、豊かに

身体障害者を対象とした世界最高峰の障害者スポーツの総合競技大会とされるパラリンピックの始まりは1960年。そのパラリンピックよりも先に始まった「デフリンピック」。

「耳が聞こえない」という意味の「デフ（Deaf）」とオリンピックが合わさったデフリンピックは、「きこえない、きこえにくいアスリート」のための国際的なスポーツ大会で、4年に1度（夏期と冬季）開催されています。大会の歴史は古く、初めての大会は1924年のパリ大会。今年100周年の節目を迎え、日本（東京を中心に）で25回目の夏季大会が開催されます。

競技種目は、夏季が21競技で冬季は7競技。ルールはオリンピックとほとんど同じですが、スタートや審判の合図は「旗や光、ジェスチャー」など、視覚で判別されるものが用いられます。また、手話やアイコンタクトによって選手間のコミュニケーションがとられるなどの工夫により、アスリートが競技に臨む環境が整備されています。

デフリンピックは、聴覚に障がいのある人がスポーツを親しみ、かつ自己実現を図るための機会を提供するとともに、デフスポーツへの理解を広げる役割を担うなど、共生社会を実現するための発展に寄与してきました。このため、今回の大会では「すべての人が輝くインクルーシブな街・東京の実現の貢献」をめざすとともに、応援アンバサダーの登用や手話単語を簡単に学べる動画を制作するなど、「みんなで大会を盛り上げる」ための準備が着々と進められています。

デフリンピックやパラリンピックは、スポーツが持つ魅力によって、あらゆる人の可能性を広げ、社会との架け橋になる貴重なイベントです。日本で開催されるこのイベントに触れ、熱い声援を送ることも共生社会の実現への大きな貢献となります。

「広報ひた」 令和7年11月号掲載